

お米のはなし

お米や稲に関するちょっとした情報・豆知識を専門家が綴る「お米のはなし」の第17弾をお届けします。

(シリーズ担当：R. I.)

17. イネの近縁野生種 (その2. *Oryza sativa* グループ)

前回、*Oryza* 属の種全体についてお話ししました。今回からグループごとに説明します。

O. sativa グループに属する2つの栽培種と5つの野生種の間で相互に交配すると、それらのF₁ 雑種が減数分裂時に正常な染色体対合を示すので、同じゲノム(AA)を共有する近縁種であることが分かります。しかし、雑種不稔性など種々な生殖的隔離が種間・種内に生じます。下の地図に、この *O. sativa* グループに属する各種の分布を示しました。

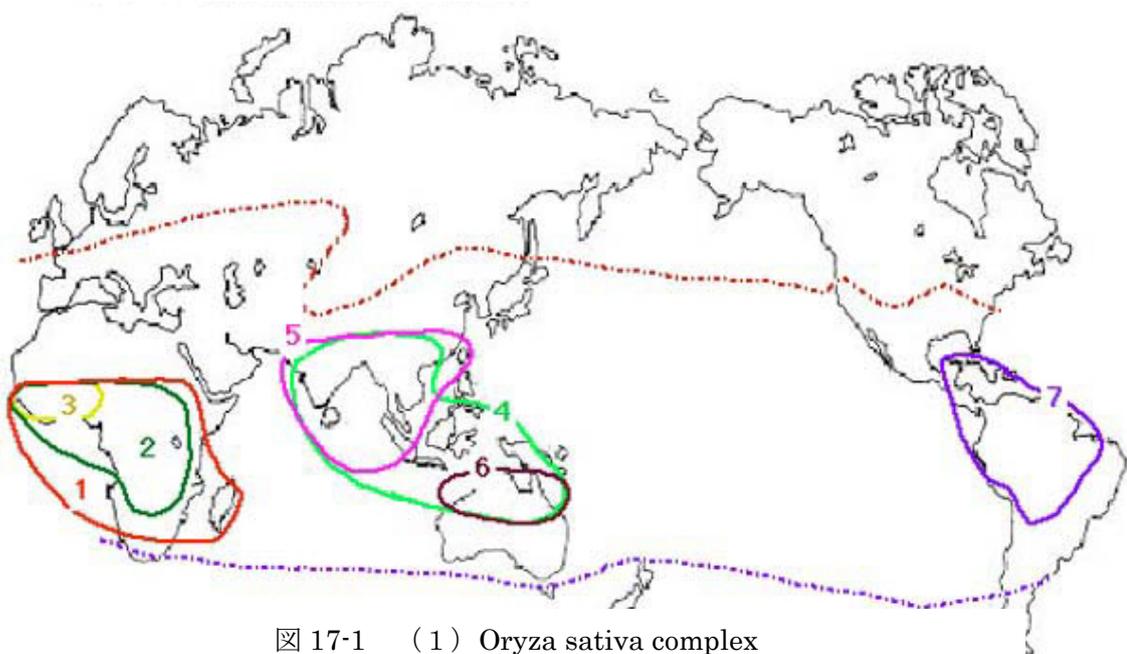


図 17-1 (1) *Oryza sativa* complex

- | | | |
|--|-------------------------------------|---------------------------|
| 1. <i>Oryza longistaminata</i> | 2. <i>O. barthii</i> | 3. <i>O. glaberrima</i> |
| 4. <i>O. rufipogon, perennial type</i> | 5. <i>O. rufipogon, annual type</i> | 6. <i>O. meridionalis</i> |
| 7. <i>O. glumaepatula</i> | | |

(出典) イネ (稲) データベース Oryzabase から引用

<https://shigen.nig.ac.jp/rice/oryzabase/education/habitat;jsessionid=8641762A4E2A619985495D55B0855B7B#OryzaSativa>

以下、イネ（稲）データベース Oryzabase に従い、*O. sativa* グループの種について説明します。

***O. sativa* L. (AA)**

アジア起源の栽培イネ。現在では世界中の熱帯から温帯にかけての広い地域で栽培されています。多様な品種が分化してインド型と日本型に大別され、日本型はさらに熱帯型と温帯型に分けられます。品種改良が進み多くの高収品種が普及する一方、熱帯の山地や深水地帯には多数の在来品種がまだ残っています。

***O. glaberrima* Steud. (AA)**

西アフリカ起源の栽培イネであり、栽培地域も主として西アフリカに限られます。無毛の品種が多く、葉舌が短く丸いことで、長くて尖った葉舌を持つ *O. sativa* と容易に区別できます。しかし、近代的な品種改良はあまり進んでいません。

***O. rufipogon sensu lato* (AA)**

O. sativa の野生祖先種。アジア・オセアニアの熱帯から亜熱帯にかけて広く自生し、生態的・地理的変異に富んでいます。複雑な種間・種内変異のため、分類・命名に混乱が多かったようです。安定した深水環境に適応する多年生的・他殖的な生態型は *O. rufipogon*、攪乱の激しい浅水環境に適応する一年生的・自殖的な生態型は *O. nivara* と呼ばれる場合があります。他の大陸に分布する近縁種と共に *O. perennis complex* とまとめて呼ばれたこともありました。栽培イネと共存すると容易に自然交雑し、後代が水田やその周辺に雑草化している場合が多いようです。

表 17-1 AA ゲノムをもつイネ属の種

分布域	生態分類	種	亜種
アジア	多年生	<i>O. rufipogon</i> *	subsp. <i>rufipogon</i>
	1年生		subsp. <i>nivara</i>
	栽培種	<i>O. sativa</i> **	subsp. <i>indica</i> subsp. <i>japonica</i>
中南米	多年生	<i>O. glumaepatula</i>	
	多年生	<i>O. rufipogon</i>	subsp. <i>rufipogon</i>
オーストラリア	多年生	<i>O. rufipogon</i>	subsp. <i>rufipogon</i>
	1年生	<i>O. melidionalis</i>	
アフリカ	多年生	<i>O. longistaminata</i>	
	1年生	<i>O. barthii</i>	
	栽培種	<i>O. glaberrima</i>	

***O. barthii* A. Chev. (AA)**

O. glaberrima の野生祖先種で、かつては *O. breviligulata* と呼ばれました。長い芒を持ち、種子だけで繁殖する一年生種で、アフリカのサバンナや深水地帯に自生しています。*O. glaberrima* と容易に自然交雑し、連続的な変異を示す集団が多数見られます。

***O. longistaminata* Chev. et Roehr. (AA)**

O. barthii と呼ばれたこともありました。よく発達した地下茎を持つ多年生種で、アフリカに広く分布しています。自家不和合の傾向があり、高い他殖率を示します。*O. barthii* と共存することもあります。自然雑種はほとんど生じませ

*多年生(*O. rufipogon*)と1年生(*O. nivara*)の2つの亜種に分けた

***O. sativa* の内、インディカとジャポニカを亜種とした

ん。

***O. meridionalis* Ng (AA)**

オーストラリア北部に分布する一年生種。同じ AA ゲノムをもつ他の種とは遺伝的に最も遠いと考えられています。

***O. glumaepatula* Steud. (AA)**

中南米の湿地に広く分布。栄養繁殖をする多年生型から、主として種子繁殖するアマゾン流域の生態型まで多様な種内変異があります。これは、*O. rufipogon* の多年生型と形態的には類似する系統もあるため、*O. rufipogon* に含まれることもあります。

今回は、*Oryza officinalis* グループ について説明します。

発行:(公社)国際農林業協働協会(JAICAF)
〒107-0052 東京都港区赤坂 8 丁目 10-39 赤坂 KSAビル 3 階

